

1月の星座 野尻抱影

1. オリオン (ORION)

子午線経過 (8 時) は立春の翌日だが、除夜の鐘を聞いたときから1月の霜夜に君臨するものがこれ——

オリオンの盾新しき年に入る 多佳子

$\alpha, \gamma, \beta, \kappa$ の囲む長方形を幻の角盾とみた名句である。大自然という芸術家はここを天蓋に、大きさ・色・光も粒選りの大真珠を入念に配置して雄大な直線図形を描き出す。非の打ちようもないシンメトリー、それを貫くミツボシの1文字、まさしく神わざと讃うべきである。しかも寂として光の言葉のみで何事かを黙示するかに思われる。森厳さに身のすくむ思いがする。

この長方形に対して、銀コウモリの形の大星雲にも小さいトラペジウム(不等辺四辺形)がみられる。しかもこれは単純な真珠の粒々ではない。ピンク、エメラルド、うす紫、ガーネットの紅にちらちら瞬いている。小望遠鏡のファンたちは見のがしてはならぬだろう。

ミツボシのアラビア名は、初めに“ミタカ”をつけると、ミンタカ、アルニラム、アルニタクがずらすと出る。

中央の ϵ で少し曲っているのが心憎い。固有運動を示すのだろうが、何千万年前からのことか知りたいと思う。

固有運動といえば α ベテルギウス——この発音は気になる——だけはよそ者で逆方向へ動いている。まっ赤な顔で不規則に変光するのも、ひがんでいらいらしているせいだろうか。

私はアベラトリックス(女武者)の名と青い色が好きだ。黒海東岸アマゾンの娘子軍で弓を引くために乳房を切り落した剽悍な女兵たちだが、後世南米の奥地にもこれに似た女たちが発見されたので、そこの大河をアマゾンと名づけた。これは案外知られていないらしい。

2. おうし (TAURUS)

オリオンの10日前に南中する。主部ヒュアデス星団の西へ向けたV字形が牛の顔、わが沖縄では“馬のチラ

(面)”とは面白い。

紅ばら色のアルデバランが金牛の片目で、この名はアラビアのダバラーン(従者)から出た。アル・トライヤ(すばる)に追随するからで、和名“すばるのアトボシ”と同意味である。

牛の角は北西へのびて、ぎょしゃ座の β となる。このすぐ北に幻のカニ星雲(M1)がある。石田五郎さんの玉手箱? だが、しかしカニ(Cancer)が同時に死病ガンで、結節のある8本足を張り、しぶとく蔓延しているのも、もやもや広がる星雲に似ているようだ。呪われあれ。

牛の顔を東の λ と結んだのが中国のウサギを捕る畢(ひつ)で廿八宿の1つである。詩経の「月畢に離りて滂沱たらしむ」で有名で、和名もアメフリボシである。

畢宿の形はラケットに似ている。それでイタリアでは、ラケットと名づけている。

◇ 1月の天文暦 ◇

日 時	記	事
1 24	朔	
4 20	地 球	近日点通過
6 14	小 寒	(太陽黄経 285°)
7 14	水 星	東方最大離角
9 2	月	最速
22	上 弦	
14 5	水 星	留
17 14	望	
20 20	土 星	衝
22	月	最近
21 5	火 星	留
7	大 寒	(太陽黄経 300°)
23 15	水 星	内合
24 8	下 弦	
31 15	朔	

